

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 62-187974

(43)Date of publication of application : 17.08.1987

(51)Int.Cl.

G06F 15/42

(21)Application number : 61-029973

(71)Applicant : NEC CORP

(22)Date of filing : 13.02.1986

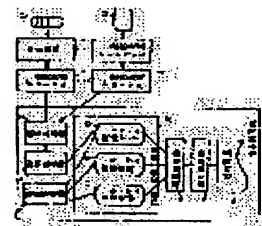
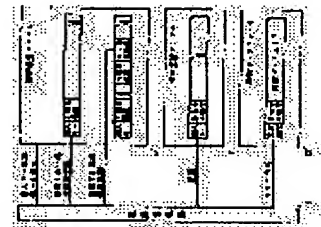
(72)Inventor : MURAKAMI KOJI

## (54) DIAGNOSIS DATA MANAGING DEVICE

## (57)Abstract:

PURPOSE: To display the past data and present data of all patients time- sequentially in case of the 2nd diagnosis or thereafter by forming a diagnosis history table, a daily diagnosis table and a diagnosis data file in a management file of medical diagnosis data for individual patient.

CONSTITUTION: At the reception of diagnosis, a history managing part 5 collates a person proposing diagnosis with a diagnosis history table 12 by using the name, birthday, sex keys or the like identifying the person. When the same key is not detected, the patient is decided as a new patient, and when the same keys exist, the patient is decided as a past patient and the current diagnosis history is added to the table 12 as the final history of the patient. A storing processing part 4 stores the history in the area of a diagnosis data file 13. A retrieval processing part 6 refers the daily diagnosis table 11 and the table 12, extracts the diagnosis data of all the patient of the day corresponding to the day and several days in the past and displays the extracted data time- sequentially.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

昭62-187974

⑤ Int.Cl.<sup>4</sup>

識別記号

庁内整理番号

④ 公開 昭和62年(1987)8月17日

G 06 F 15/42

7313-5B

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑬ 発明の名称 検診データ管理装置

⑰ 特 願 昭61-29973

⑱ 出 願 昭61(1986)2月13日

⑭ 発 明 者 村 上 浩 司 東京都港区芝5丁目33番1号 日本電気株式会社内

⑮ 出 願 人 日本電気株式会社 東京都港区芝5丁目33番1号

⑯ 代 理 人 弁理士 井出 直孝

# 明 細 書

## 1. 発明の名称

検診データ管理装置

## 2. 特許請求の範囲

(1) 患者の検診データを蓄積する格納手段と、

この格納手段から所定の患者の検診データを読み出す読出手段と、

この読み出された検診データを表示する表示手段と

を備えた検診データ管理装置において、

上記格納手段には、

過去および現在の検診データを蓄積する領域が設定され、

上記読出手段は、

上記領域に格納された検診データのうち指示された検診データを読み出し、時系列的に上記表示手段に表示させる手段

を備えたことを特徴とする検診データ管理装置。

## 3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は、医療分野における検診業務の自動化手段に関する。特に、検診履歴および検診データの管理装置に関する。

〔概要〕

本発明は、患者の検診データを集信し、これを可視表示する検診データ管理装置において、

検診履歴を時系列的に表示することにより、

検診業務を迅速に実行することができるようにしたものである。

〔従来の技術〕

従来例装置では、各種のME機器(生化学分析装置および血球カウンタなど)をプロトコル変換装置を介して電子計算機と接続し、ME機器などで分析された情報を電子計算機で集信し、可視表示させる。これにより、検診に要する時間および結果を取得するまでの時間を短縮し、検診業務を効率化していた。

## 特開昭62-187974(2)

(発明が解決しようとする問題点)

このような従来例装置では、その場での検診業務の自動化には大いに寄与しても、結果として可視表示されるのは検診を受けた時点での個人の健康状態が主であり、実際に適切な診断を下すにはそれ以降に時系列的な再検診や問診などを繰り返す必要があった。

本発明はこのような欠点を除去するもので、過去の検診データが時系列的に可視表示される検診データ管理装置を提供することを目的とする。

(問題点を解決するための手段)

本発明は、患者の検診データを蓄積する格納手段と、この格納手段から所定の患者の検診データを読み出す読出手段と、この読み出された検診データを表示する表示手段とを備えた検診データ管理装置において、上記格納手段には、過去および現在の検診データを蓄積する領域が設定され、上記読出手段は、上記領域に格納された検診データのうち指示された検診データを読み出し、時系列的に上記表示手段に表示させる手段を備えたこと

を特徴とする。

(作用)

患者の今回の検診データと過去数回分の検診データとが格納手段に格納される。

患者を指定する信号の入力に基づいて、この患者の一連の検診データが格納手段から読み出され、表示手段に時系列的に可視表示される。

(実施例)

以下、本発明実施例装置を図面に基いて説明する。

第1図は本発明実施例装置の構成を示すブロック構成図である。第1図に示すように、この実施例装置はME機器およびマークカード読取装置1と、プロトコル変換装置2と、読込処理部3と、格納処理部4と、履歴管理部5と、検索処理部6と、出力処理部7と、当日受診テーブル11と、検診履歴テーブル12と、検診データファイル13と、出力装置14とを備え、このうちの読込処理部3と、格納処理部4と、履歴管理部5と、検索処理部6と、出力処理部7とは電子計算機31の中央処理装

置上で動作するソフトウェアで実現され、また、当日受診テーブル11と、検診履歴テーブル12と、検診データファイル13とは外部記憶装置32上に記憶されるファイルで実現される。ME機器およびマークカード読取装置1は試験管21などに採取された血液や尿および受診者が記入した問診表22から必要な情報を信号として検出し、プロトコル変換装置2へ送出する。通常、ME機器などが検出する信号は電子計算機が持つインタフェースと合致していない場合が多いので、プロトコル変換装置2を用いてプロトコル変換を行いインタフェースを合わせた上で、電子計算機31へ送出する。送出された信号は読込処理部3が受信し、格納処理部4へ通知する。

一方、履歴管理部5では受診受付時に受診申込者の個人を識別するキー(氏名、性別、生年月日)を用いて検診履歴テーブル12とのつき合わせを行い、履歴管理を遂行する。この動作を第2図に基づいて説明する。まず、個人を識別するキーを設定後に、検診履歴テーブル12とつき合わせて同一

キーが存在するかどうかを調べる。存在しない場合には、新規の受診者であると判断し、今回の検診履歴を設定して検診履歴テーブル12上に新規登録を行う。存在する場合には、過去受診したことのある受診者であると判断し、その個人の最後の履歴として今回の検診履歴を検診履歴テーブル12上に追加する。いずれの場合にも、履歴の情報には受診日付と当日中の番号をセットする。また、新規あるいは過去受診したことがあるかにかかわらず、当日受診テーブル11上に個人を識別するキーと当日中の番号を含む当日受診者情報を書込み、検診データファイル13上に受診日付と当日中の番号を含む今回の検診データを書込むエリアを生成する。

さて、格納処理部4では、読込処理部3から通知された検診データを履歴管理部5で生成された検診データファイル13上のエリアに格納する。次に、当日受診テーブル11および検診履歴テーブル12を参照することにより、検索処理部6を用いて検診データファイル13から当日の受診者全員の今

## 特開昭62-187974 (3)

回および過去数回分にわたっての検診データを自動的に抽出し、それを出力処理部7に通知することによって、当日の受診者全員の検診データを時系列的に自動的に出力装置14上に可視表示させることができる。また、検索処理部6で当日受診テーブル11を参照しないで個人を識別するキーを直接に指示すれば、必要な個人に関する検診データを時系列的に出力装置14上に随時可視表示させることも可能である。

## 〔発明の効果〕

本発明は以上説明したように、複数のME機器などのような検診データを検出する手段を電子計算機と接続してデータを取込む一方、二回目以降の受診者であれば、過去に蓄積されている同一個人の検診データと今回分の検診データを合わせて時系列的に可視表示させることが可能になるので、検診業務の迅速化および医師などによる適切かつ精度の高い総合診断および生活上の助言などを可能にする効果がある。

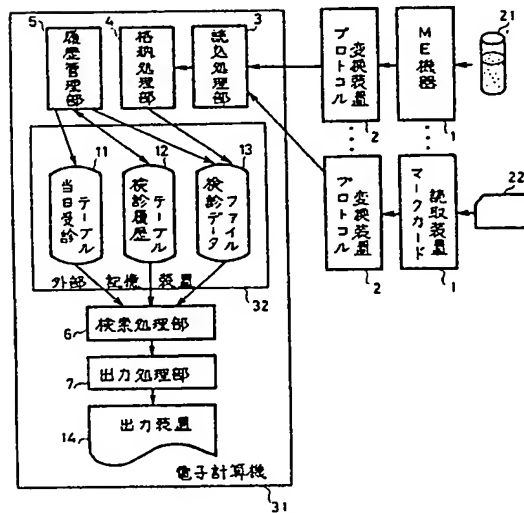
## 4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明実施例装置の構成を示すブロック構成図。

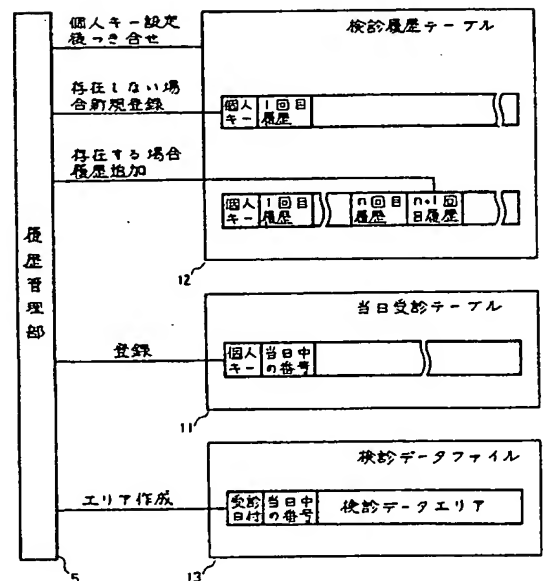
第2図は第1図の履歴管理部の動作を説明する概念図。

1…ME機器およびマークカード読取装置、2…プロトコル変換装置、3…読込処理部、4…格納処理部、5…履歴管理部、6…検索処理部、7…出力処理部、11…当日受診テーブル、12…検診履歴テーブル、13…検診データファイル、21…試験管、22…問診票、31…電子計算機、32…外部記憶装置。

特許出願人 日本電気株式会社  
代理人 弁理士 井出直孝



実施例の構成  
第1図



履歴管理部の動作  
第2図